

保田龍門・保田春彦展 出品目録

2015.5.26 (火) —7.5 (日)

和歌山県立近代美術館

およその展示順により、作品名、制作年、技法材質、寸法 (cm)、その他 (所蔵注記等) を記載しています。
所蔵について特に表記のない作品は当館所蔵品です。*は保田春彦氏寄贈です。

保田春彦

闘病デッサン (『往復書簡集』特装版のための)

2013 (平成25) ペン・色鉛筆、紙 19.0×19.0

父の像 1951 (昭和26) /2013 (平成25) 铸造 ブロンズ 65×53×28

保田龍門

トルコ帽の自画像	1913-1914 (大正2-3)	油彩、キャンバス	45.6×38.6	
少年	1912 (明治45/大正元)	油彩、キャンバス	45.8×60.6	*
コオニユリのある風景	1912 (明治45/大正元) 頃	油彩、キャンバス	38.2×46.0	*
自画像	1915 (大正4) 頃	インク、紙	28.8×21.9	*
風景	1915 (大正4)	インク、紙	32.8×19.5	*
自画像	1915 (大正4)	油彩、キャンバス	60.9×50.2	
父の像	1915 (大正4)	油彩、キャンバス	73.0×60.8	*
母の像	1915 (大正4)	油彩、キャンバス	73.0×60.9	*
村の娘	1916 (大正5)	油彩、キャンバス	82.4×66.9	保田淳子氏寄贈
島の砂丘	1916 (大正5)	油彩、キャンバス	45.7×60.7	
風景	1918 (大正7)	油彩、キャンバス	46.0×60.8	*
クリスティーヌの首	1922 (大正11) /1985 (昭和60) 铸造	ブロンズ		34.0×27.0×27.5
アンドレの首	1922 (大正11)	ブロンズ	20.3×20.0×20.0	和歌山県立美術館友の会寄贈
アンドレ像	1921 (大正10)	油彩、キャンバス	54.7×45.8	
宿の窓より(オンフルール風景)	1922 (大正11)	油彩、キャンバス	46.0×54.0	保田淳子氏寄贈
読書	1921 (大正10)	油彩、キャンバス	65.5×53.0	保田淳子氏寄贈
K婦人の像	1920 (大正9)	油彩、キャンバス	60.6×46.0	龍門展開催委員会寄贈
デッサン [女性像]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	31.6×24.1	*
デッサン [女性像]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	32.6×24.9	*
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	色鉛筆、紙	25.1×32.6	茨木修氏寄贈
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	31.5×24.2	*
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	32.6×25.0	茨木修氏寄贈
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	31.6×24.2	*
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	24.0×31.7	*
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	24.8×32.6	*
デッサン [裸婦]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	32.8×25.0	*
デッサン [風景]	1921-23 (大正10-12)	鉛筆、紙	24.9×32.8	*
少女	1925 (大正14)	ブロンズ	173.5×67.0×43.0	
裸婦群像(構図の研究)	1926 (昭和元)	油彩、キャンバス	130.2×194.2	*
仰臥女 原型	1924 (大正13)	石膏	高さ 19.0	*
女の首	1926 (昭和元)	石膏着色	高さ 50.5	*
光明皇后賜療	1936 (昭和11)	油彩、キャンバス	190.0×557.8	*
学園風水禍レリーフ 水禍	1937 (昭和12)	石膏	53.5×71.0×5.5	*
学園風水禍レリーフ 風禍	1937 (昭和12)	石膏	54.5×72.5×5.3	*
学園風水禍レリーフ 殉職 A	1937 (昭和12)	石膏	54.5×72.3×5.8	*
学園風水禍レリーフ 殉職 B	1937 (昭和12)	石膏	54.2×72.4×5.7	*
丹生都比売命-紀北古事記- (和歌山県庁壁画レリーフ習作)	1939 (昭和14)	石膏	49.5×49.5×3.5	*
男性裸像 原型	1939 (昭和14) 頃	石膏	53.3×30.4×28.4	*
南方翁胸像 原型	1965 (昭和40)	石膏	高さ 48.5	*

保田春彦

犬の頭骨	1950 (昭和25)	セメント	22.0×51.8×24.7	*
女の顔	1955 (昭和30)	セメント	67.8×37.3×38.6	*
トルソ	1955 (昭和30)	セメント	102.8×47.8×36.5	
島 II	1956 (昭和31)	ブロンズ	59.2×30.3×30.4	
伝説	1957 (昭和32)	木	99.5×36.5×39.2	
デッサン	1950年代	コンテ・鉛筆、紙	35.7×25.2	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.3×24.9	*
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.3×24.9	*
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.7×25.1	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.5×24.9	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.2×24.9	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.3×24.9	*
デッサン	1950年代	鉛筆、紙	13.3×9.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	鉛筆、紙	20.7×14.5左/20.7×14.5右	*
デッサン	1950年代	ペン、紙	12.2×17.9	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	ペン、紙	12.2×18.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1950年代	鉛筆・インク、紙	45.5×31.3	*
デッサン	1950年代	コンテ、紙	26.6×21.8	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆・ペン、紙	17.4×24.7	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆・ペン、紙	17.3×24.8	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、紙	14.5×20.7	*
36cm立方体	1970 (昭和45)	ステンレススチール	38.5×36.0×36.0	
作品3-71	1971 (昭和46)	真鍮、クロム・ホワイトメッキ	84.2×82.8×82.6	*
階段のある広場	1973 (昭和48)	2基1対 ステンレススチール	6.0×75.0×75.0/6.0×75.0×75.0	
斜面のある風景	1973 (昭和48)	2基1対 ステンレススチール	53×12.6×58.5/50.0×12.8×52.7	
閉ざされた祠	1974 (昭和49)	2基1対 ステンレススチール	48.5×14.7×20.5/47.5×14.6×20.5	
ソフィット B	1977 (昭和52)	銅	32.0×31.6×31.0	
デッサン	1970年代	鉛筆・ペン、紙	17.5×24.3	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	色鉛筆・鉛筆・ペン、紙	17.4×24.7	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	17.5×24.5	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	17.5×24.7	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	12.3×18.2	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	12.3×18.1	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	12.3×18.1	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	12.3×18.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	17.9×24.6	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、ペン、紙	17.4×24.6	青木治男氏寄贈
デッサン	1970年代	鉛筆、インク、紙	17.5×25.0上/17.5×25.0下	*
赤錆のクニコロ(地下道)	1977-78 (昭和52-3)	3点組 鉄	10×130×10/10×130×10/10.0×132.5×10	
赤錆の門	1978 (昭和53)	鉄	25×176×25右/25×176×25左	
屋根 二景	1980 (昭和55)	2点組 鉄	24.5×55.3×54.8/13.0×58.0×55.0	
聚落を囲う壁 エスキース I	1994 (平成6)	ブロンズ、黒花崗岩	22.0×43.5×27.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1980年代	鉛筆・インク、紙	17.5×24.7上/17.5×25.0下	*
デッサン	1980年代	鉛筆・インク、紙	12.5×18.2左上/12.5×18.2左下	
			12.5×18.2右上/12.5×18.2/右下	*
デッサン	1980年代	鉛筆・インク、紙	12.3×18.1左上/12.5×18.2左下	
			12.3×18.1右上/12.5×18.2右下	*
デッサン	1980年代	鉛筆・インク、紙	24.5×35.3	*
デッサン	1980年代	色鉛筆・鉛筆・ペン、紙	24.5×36.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1990年代	鉛筆・ペン、紙	26.0×19.0	青木治男氏寄贈
デッサン	1990年代	鉛筆・ペン、紙	26.0×18.6	青木治男氏寄贈
デッサン	1990年代	鉛筆・ペン、紙	26.2×18.4	青木治男氏寄贈

デッサン	1990年代	鉛筆・ペン、紙	26.2×18.4	青木治男氏寄贈
デッサン	1980年代	鉛筆・インク、紙	24.9×17.5上/24.8×17.5下	*
格子と壁	1998 (平成10)	ブロンズ	60.0×29.9×44.0	*
梯子と壁	1998 (平成10)	ブロンズ	62.0×29.9×46.6	*
屈折の柱	2001 (平成13)	鉄	68.0×6.0×8.0	*
扁平な壁	2001 (平成13)	鉄	29.5×24.0×5.0	*
波状の壁	2001 (平成13)	鉄	9.0×68.0×6.0	*
デッサン	2007 (平成19)	(左)ペン・コンテ、紙 (右)ペン・コンテ・色鉛筆、紙	35.7×26.9	*
デッサン	2008 (平成20)	(左)水彩・ペン、紙 (右)ペン・コンテ、紙	35.7×26.9	*
デッサン	2008 (平成20)	(右)水彩・ペン・コンテ、紙 (左)水彩・ペン・コンテ、紙	35.7×26.9	*
デッサン	2008 (平成20)	(上)コンテ・ペン、紙 (下)コンテ・ペン、紙	26.9×35.7	*
デッサン	2008 (平成20)	コンテ・ペン、紙	37.2×52.6	*
デッサン	2008 (平成20)	コンテ・ペン、紙	36.6×51.6	*
デッサン	2008 (平成20)	コンテ・ペン、紙	52.6×37.2	*
デッサン	2008 (平成20)	コンテ・ペン、紙	52.5×37.2	*
デッサン	2008 (平成20)	コンテ・ペン、紙	37.2×49.1	*
昔日の紀の川堰の残像	2010 (平成22)	木、竹	25.0×140.0×100.0	個人蔵
N邸の槇の一本原木	2010 (平成22)	木、竹	210.0×30.0×45.0	個人蔵
進化の過程	2010 (平成22)	木	55.0×180.0×45.0	個人蔵
闘病デッサン	2010 (平成22)	ペン・色鉛筆、紙	24×33	個人蔵
闘病デッサン	2010 (平成22)	ペン・色鉛筆、紙	25×34.3	個人蔵
闘病デッサン	2010 (平成22)	ペン・色鉛筆、紙	46.5×69	個人蔵
闘病デッサン	2010 (平成22)	ペン・色鉛筆、紙	47×64	個人蔵

保田龍門 年譜

- 1891 (明治24) 5月13日、和歌山県那賀郡龍門村大字荒見（現在の紀の川市）に生まれる。本名は重右衛門。
- 1911 (明治44) 上京し、太平洋画会研究所に入所。中村彝、中原悌二郎、戸張孤雁らと知り合う。白馬会研究所にも通う
- 1912 (明治45/大正元) 東京美術学校予備科（西洋画科志望）に入学。
- 1917 (大正6) 東京美術学校西洋画科本科を次席で卒業。第11回文展で《母と子》が特選となる。
日本美術院の彫刻研究所で石井鶴三、佐藤朝山、中原悌二郎らと研鑽を積む。
第5回院展に出品し、《肖像（石井氏の像）》が樗牛賞を受賞。
- 1918 (大正7) 横浜港より渡米。
- 1920 (大正9) フランスに着。パリのグランド・ショミエール美術研究所に入所し、ブルデルに師事。
- 1921 (大正11) マイヨールを訪ねる。母の訃報を受け、帰国。第10回院展に《首 [クリスチーナ]》などを出品。
- 1923 (大正12) 以後、27回まで毎年出品。
郷里に西村伊作設計のアトリエを建てる。滞欧記念展覧会を東京の徳川頼貞邸で開く。北淳子と結婚。
郷里に帰る。
- 1930 (昭和5) 長男、春彦誕生。
- 1935 (昭和10) 大阪に転居。
- 1937 (昭和12) 山口市教育博物館に《吉岡訓導殉職像》を設置。
- 1939 (昭和14) 和歌山県庁舎のためにレリーフを制作設置。
- 1941 (昭和16) 伊豆下田に《吉田松陰像》を制作設置。
- 1946 (昭和21) 大阪市立美術研究所開設、彫刻部教授となる。
- 1952 (昭和27) 和歌山大学学芸学部講師となり、翌年教授に就任。
- 1954 (昭和29) 紀陽銀行本店（和歌山市）にレリーフを制作設置。
- 1956 (昭和31) 名古屋市平和堂建立に着手。1964年に竣工。
- 1959 (昭和34) 和歌山大学教授を退官。
- 1960 (昭和35) 成田山不動尊に《交通安全記念像》を制作設置。
- 1963 (昭和38) 和歌山市の児童女性会館に《松下幸之助夫妻像》《母子像》を制作設置。
- 1965 (昭和40) 2月14日、動脈硬化症のため死去。遺作《南方熊楠像》（未完）。享年73。

保田春彦 年譜

- 1930 (昭和5) 2月21日、保田龍門、淳子の長男として和歌山県那賀郡龍門村大字荒見（現在の紀の川市）に生まれる。
- 1947 (昭和22) 大阪府立天王寺中学校を卒業、東京美術学校彫刻科に入学。石井鶴三教室に在籍。
- 1952 (昭和27) 東京美術学校彫刻科を卒業。《肖像》により第37回院展奨励賞（白寿賞）受賞。
以後、第42回まで毎年出品。
- 1957 (昭和32) 第42回院展に《伝説》を出品、奨励賞（白寿賞）受賞。
- 1958 (昭和33) 神戸港より渡航し、パリのグランド・ショミエール美術研究所に入所。オシップ・ザッキンに師事。
ローマからの留学生シルヴィア・ミニオ=パルウエルロと知り合う。
- 1959 (昭和34) クリティック・シュス賞展で第1席を受賞。第1回パリ青年美術家ビエンナーレ展に選抜出品。
ローマに移る。
- 1960 (昭和35) シルヴィアと結婚。
- 1962 (昭和37) 個展をローマ、アンテア画廊で開催。以後、ウィーン、ブリュッセル、シュトゥットガルトでも開催。
- 1965 (昭和40) 父、龍門死去。
- 1968 (昭和43) 妻と娘2人と共に帰国。東京に住む。
- 1969 (昭和44) 武蔵野美術大学の専任教員となる。
- 1970 (昭和45) 神戸須磨離宮公園第2回現代彫刻展に出品、大賞受賞。以後、国内の彫刻展で受賞を重ねる。
南画廊（東京）で帰国後初の個展。1975年以後、南天子画廊（東京・大阪）で新作発表を続ける。
- 1995 (平成7) 保田春彦展を神奈川県立近代美術館・大原美術館・三重県立美術館・当館にて開催。
《聚落を囲う壁Ⅰ》により第26回中原悌二郎賞受賞。和歌山県文化賞受賞。
- 1997 (平成9) 紫綬褒章受章。
- 2000 (平成12) 伴侶シルヴィア死去。武蔵野美術大学退任。
- 2005 (平成17) 神奈川文化賞受賞。
- 2007 (平成19) 第23回平櫛田中賞受賞。クロッキー教室に通い1000枚の発表を目標に人体素描に取り組む。
- 2008 (平成20) パリで人体素描に取り組む。脳血栓を患うも所期の枚数のクロッキーを描き、帰国。
- 2010 (平成22) 脳梗塞を患うも自身のリハビリの様子を描く。